

成功へのキセキ

南の国の「ナデシコ」税理士

第19回 ミナミの空港を、ひた走る!!

Why do you push me!?(押すなよ!)

場所は、バンコク・スワンナプーム国際空港のバスの中。生まれてはじめて、見知らぬヨーロッパ人から英語で非難されてしまいました。ヤンゴンから乗った飛行機をおりて、バスに乗り、カンボジア行きのトランジット・ゲイトに急ぐ途中のできごとです。

Sorry!!!と叫んで、振り返る間もなく、バスのタラップを駆けおりる私。これには、深〜いわけがあるのです。

実はこのとき、以前このコラムでも紹介したこともあるカンボジアのアントレプレナー・フェスティバルに向かう途中でした。このアントレプレナー・フェスティバルは、大学生向けに毎年2月、仲間の経営者たちと開催しているもので、今年で4回目になります。私の役割は、100人超の大学生を前に、事業計画書のつくり方について、ドキドキしながらつたない英語でワークショップをすること。

最初の年は、90分の講義の間に、停電が3回あり、パワーポイントが真っ暗になるなど、アクシデント続き…。パソコンを再起動し直していると、「時間ももったいないから、話を聞かせて!」と、若い学生たちの熱気に刺激されるなど、私がアジアに進出するきっかけをつくってくれた大切なイベントです。

最初の予定では、ミャンマー出張のあとベトナムによって、アントレの2日前にカンボジア入りする予定でした。ところが、東京事務所で税務調査の立ち合いが重なってしまい、日本を離れられなくなってしまったのです。普段なら、最低でもミャンマーに5日は滞在するところですが、こちらでも滞在2日間のトンボ帰り。ベトナム訪問はあきらめて、アントレ前日の夕方にミャンマーからカンボジアに滑り込む、過密スケジュールとなってしまいました。

しかも直前で、飛行機の予約を変更したため、バンコクの乗換時間が約1時間しかないのが、何となく不安だったのですが…。

案の定というか、やっぱりというか、お約束どおりというか(汗)、飛行機は定刻には出発しません。なかなかon boardのサインが点灯しないヤンゴン国際空港のフライトボードと、腕時計を1分おきに交互に見ながら、イライラしながら待つこと50分…。

やっと搭乗は開始したものの、順調にいてもバンコクの乗り換え時間は、20分しかありません。「キャー、もう間に合わない〜」と叫ぶと、ボーディング・カウンターのお姉さんが、飛行機から最初に降りられるようにと、前から3番目の席に変更してくれました。

けど、
けど、
これ、そんな事でどうにかなるような遅れなの←心の叫び(ムンク風)

さて飛行機に乗るやいなや、まずは腕時計をバンコク時間に変更。すぐに降りられるようにと、手荷物は膝の上に置いたま

ま、約1時間半のフライトです。言っても仕方ないとは思いますが、フライトアテンダントのお姉さんに、乗り継ぎ時間が20分しかないの…と、訴えてみます。

すると綺麗なお姉さんも、「あら大変」と目を丸くして、「バンコクでスタッフが待っているから大丈夫」と安心させてくれたり、着陸するやいなや、一番最初に降り口まで誘導してくれたり、とても、親切です。

ところが…。
お姉さんの図らいで、最初に飛行機を降りたのはいいのだけど…

え、バス!?

そうなんです。ヤンゴン〜バンコクは、ローカル路線なので、広いスワンナプーム国際空港の滑走路の端っこに着陸。飛行機からターミナルビルまでは、バスに乗って行かなければなりません。

バスのお姉さんに、「時間が無いのー!!!」と訴えても、お姉さんはニコニコして、ただ頷くだけ。結果、次から次へと他の乗客たちが、ゆっくりバスに乗り込んでくるのを、ずっと待つ羽目に…。

イライラ、イライラ、イライラ

やーっと満員になったところで、バスは発車です。でも、なんだかこのバス、いつもよりゆっくり走っている(ような気がする…)。満員の乗客を乗せたバスは、ようやくトランジット・カウンターのあるターミナルビルに到着。この時点で、次のフライト時間まで残り15分。しかも、なまじ最初にバスに乗ったために、降りるのが、一番最後じゃん…(ー；)

というわけで、ギョウギョウ詰めの乗客をかき分けて、無理にグイグイ降りようとして、冒頭のように、見知らぬヨーロッパ人に怒られたのでした。

Why do you push me!?

ごめんなさーいと、心の中で叫びながら、ターミナルビルの中に飛び込むと、フライトアテンダントのお姉さんが言ったとおり、乗り継ぎ便のプラカードを持ったバンコク・エアウェイズのお姉さんたちが、数名待っているではありませんか!

よかったー
これで、間に合う〜

って、うそ?!
プノンペン行きのプラカードが、見当たらない!!



アントレプレナー・フェスティバルに参加の学生たち

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」を全国1位の成績で、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性だけのスタッフ30名、一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に「小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本」「小さな起業のファイナンス」(いずれもソーテック社)、「51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)」「トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)」「世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)」「一生食っていくための士業の営業術(中経出版)」など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

プノンペン!!

プノンペン!!

と、大声で叫んでいると、クアラルンプール行きのプラカードを持ったお姉さんが、気づいてくれました。周りをキョロキョロ見回し、「あのスタッフについて行って」と、はるか彼方を指差します。

えええー

本当?

ここで方向を間違えると、絶対にカンボジア便には間に合わない。けれど、行くしかないかと瞬時に判断。はるか先を歩くプラカードのお姉さんのところまで、走る、走る、走る。

やっと追いついたお姉さんのプラカードには、確かに「プノンペン NAOMI HARA」と書いてありました。なんで、おいてくの〜と思いましたが、プラカードには、別の人の名前も書いてあり、その人を連れて、トランジット・カウンターに向かった模様です。どうやら、私がバスから降りるのが遅かったので、おいてきばりにされたらしい…。

どうなの??

それ??

と、心の中で思いながらも、もう大丈夫、ともかくひと安心だわ(ホッ)

ところが、これで一件落着とはいかないのが、アジアなんですよー。

さてトランジット・カウンターに着き、バッグをセキュリティ・チェックのカウンターに置きます。何の問題もなく、ここは通過するはずなのに、係員からバッグを開けるようにと指示が…。

なんで今日に限って、携帯のバッテリーを出せとかいうわけ…?

そんなにひっくり返して、調べたりしなくてもいいから。それ、爆弾じゃないから。

大丈夫だから、
もう、通してけるー(；´O´)←心の叫び

不審気な係員に、何とか納得してもらい、プラカードを持ったお姉さんと一緒に小走り、カンボジア便

の搭乗口がある3階行きのエスカレーターに乗ります。で、
で、
その時、私、気がついてしまったのです。

お姉さんの持っているカンボジア便のプラカード、私の名前は書いてあるけど、便名が違っている!!!

しかも、便名の数字が大きいから、多分、私のフライトより、遅い時間のような気がする…。

一難去ってまた一難。お姉さんにチケットを見せて、便名が違っていることを必死でアピールします。するとお姉さんたら、肩をすくめて、あろうことか、今度は私を総合案内所に連れていくではありませんか!で、「ここで搭乗口を教えてください」と言うと、サッサと何処かへ消えてしまったのですΣ(´д`lll)

ひえー

この時点で、フライト時刻まで、あと5分。

それでも気を取り直して、総合案内所のお姉さんに、チケットを見せて、便名を連呼!

正しい搭乗ゲートの番号を教えてください、広い、広い、広いバンコク・スワンナプーム国際空港の中を走る、走る、走る。そして、ついに、プノンペン行きの搭乗口へ到着したのです。

でも、普通に考えたら、間に合うわけがないですよ。国際便って、遅くとも15分前にはチェックインしないとイケないはずだし…。それでもダメ元で、チェックインカウンターのお姉さんに、ハアハア言いながら、チケットを見せたわけです。

I'm in time???

そしたら、

そしたら、

なんと、間に合ったのですー(▽▽)

そんな馬鹿な…。

どうして間に合ったかって?

それは、プノンペン行きの飛行機も、1時間遅れていたからでした。

チャンチャン 罫rz+

好評発売中

7人家族の主婦で1日3時間しか使えなかった私が知識ゼロから難関資格に合格した方法

原 尚美 著(中経出版) 1,300円+税

アタマのいい人と勉強のできる人は違います。勉強のできる人は、点をとるコツを知っているだけなのです。どうすれば本番で実力以上の力を発揮して、難関試験に合格するための、超合理的な、大人の勉強法について書いたものです。がばっているのだけれど、なぜか結果のでない方、勉強したいのに、仕事が忙しくて時間がとれないビジネスパーソンの、今よりひとつ上の人生を目指したくて、悩んでいる方、このまま家庭の中だけに埋もれてしまいたくない子育て中のママ、そんな皆さんへの応援の気持ちを込めた一冊です。

7人家族の主婦で1日3時間しか使えなかった私が知識ゼロから難関資格に合格した方法

著者 原尚美

合格率10%以下の難関資格にストレートで合格した驚異的なメソッド公開!

「勉強が苦手で、試験勉強が苦手な人」にこそ読んでほしい一冊!